

スモール・イズ・ビューティフル

「鳥取に方向性を与える」と知事共鳴

政務レポート

りれーしょん

2011年8月10日
鳥取県議会議員
砂場隆浩
鳥取市片原1-107

「Relation」とは1605年、
ストラスブルックで世界で
初めて創刊された新聞「
リレーション」が由来とい
う説があります。

鳥取県議会6月定例会は6月1日に開会し、同月23日まで論戦を展開しました。私は本会議の一般質問に立ち、平井知事に鳥取県の未来像などを尋ねたほか、一般会計補正予算案の一部修正案と郵政改革法案の審議促進を求める意見書を提出しました。両修正案は賛成少数で否決されましたが、他会派との連携など様々勉強になる初議会でした。議員の主戦場は議場です。質問するだけでなく、予算や議案の修正案提出など積極的な議会活動を全力で続けて参ります。

大きな夢、県民に提示を 困難に立ち向ってこそ政治家

「政治家の政治哲学、思想性は、つまるところ、その描いているかに帰着する。」



本会議の質問ではパネルとレーザーポインターを使い、分かり易さにも配慮しました

シューマツハが40年前に著した『スモール・イズ・ビューティフル』で、地域の必要に応じ、地域の資源で生産活動を賄う循環型の仏教型経済を提唱し、完全雇用と最小限の消費で最大限の幸福を得る地域をつくるべきだと提案をしています。非常に示唆に富む考えだと思いますが、知事、どうですか。本会議の一般質問は、そう話し始めました。

次いで、ジョン・F・ケネディー大統領がライス大学でアポロ計画を説明した「私たちが月面有人探査と



質問に答える平井知事

いう道を選択したのは、それが容易ではなく困難であるからだ、そして、我々は、この挑戦を後回しにせず、受けて立つことを望み、これに勝利する用意があるからだ」という演説を紹介。「困難にあえて立ち向かう姿勢こそが、我々政治家のあるべき姿ではないか」と問いを重ねました。そして、「平成の世に生きる私たちに、司馬遼太郎が小説『坂の上の雲』で描いた明治の人たちのように、坂の上の雲に浮かぶ一筋の雲を目指してひたすらに坂を上るメソダリティーはない。だからこそしっかりとした哲学、理念に裏打ちされた大きな大きな夢を県民に提示することが大切」と訴えました。

知事は「砂場議員の質問で共鳴するのは『スモール・イズ・ビューティフル』という考え方。私たちの鳥取県にも一つの方向性を与えるものではないか。福島原発の問題で、決定的なまでに方針転換が迫られている。時代の転換点に立って、私たちの鳥取県や、私たちの未来像を創らなければならぬ。その中に夢を描いていかねばならない」と賛同していただきました。

そして、「鳥取県は小さな県だが、自然環境に恵まれ、地域のコミュニティもしっかりしていて、支え合いの気風もある。これを武器に、技術開発を行って先端産業に切り込みたい。ローテクと言われがちな農林水産業も立派な先端産業。我々の生きる糧になつていくだろう」と言葉を引き、「時代が変わり、私たちこそが、これからの世界の動向を握る地位に立ち得るチャンスが出てきた。人材を育成し、安全・安心な暮らしを保障する社会システムを共に築き上げていくことが、私たちの未来の姿として必要と思う。今日は議員の方から、各種の提示をいただいた。そうした夢を私も皆さんと一緒に追っていきたい」と力強く未来像を話していただきました。

以下、質問は各論に入ります。